



「妙高かるた」使い、初大会 関山神社で



遊ぶ通じ郷土愛育て

昨年完成した「妙高かるた」を使ったかるた大会が5日、妙高市の関山神社で行われた。地域の子と大人が集い、団体戦で熱戦を繰り広げた。各3人編

の8チームが参加した。郷土のかるた作りは、絵本を楽しむ会ひだまり(同市)が事業化したもので、読み句は44句。「願ひこめ 関山神社く

初詣「宝蔵院 滝の上には 妙高山」「露天風呂 登山客に いやしの湯」などがある。妙高小の児童が、地域のお宝を探り遠足で作った句

きる」と話す。大会を主催した同会の川上壽孝さん(83)は「かるたに関心を持って、くついでできたらいい」と話していた。

気持ち合わせ演奏

景虎太鼓 発表会 拍手励みに力強

妙高市の太鼓グループ「景虎太鼓」は5日、同市の新井ふれあい会館で発表会を行った。24回目の発表会となっ

写真。景虎太鼓は1998年に発足した。今年で

た。開会式では、景虎太鼓の代表者が「拒絶する」と話

子どもは、景虎太鼓の演奏は、他の太鼓やダンスなどもあり、見せた。

チーム対抗で熱戦

が基になっている。「妙高かるた」を使った地域でのかるた大会は今回が初めて。関山神社の社務所で行われ、カラフルな絵札を勢いよく取り合った。トーナメント方式で優勝を懸けた。参加した川上壽美さん(44)は「かるたを通して地域のことを知ることが

身近な情報話題を
お寄せください

主要ニュースの
全文が読める

新聞、電子版に
つづく

第三のタイムス

タイムスLite

はじめました

上越地域の話題を毎日